

樹脂バンパー補修事例の紹介(その2)

前回に引き続き、あいおいニッセイ同和自動車研究所のバンパー補修セミナーで行っている、樹脂バンパー補修事例を紹介します。

局所的な変形での樹脂バンパーの補修

バンパーの局部に集中して応力がかかり変形した補修方法には、パテ盛りでの修正がありますが、パテを使用しないで補修を行いました。

局部変形状態(バンパー表面)



局部変形状態(バンパー裏面)



使用工具



局部変形部はバンパー表面から凹んでいる状態です。この部分を凸状態にするため、工業用ドライヤーで加熱を行い、ハンマーの柄などを使用して押し出します。残った凹みはハンマーとドリラーを使用して凸状態に成型します。

工業用ドライヤーで加熱



ハンマーの柄などで押し出す



ハンマーとドリリーを使用して成型



エアブローにて冷却



フレキシブルファイルにて削り



エアブローで冷却後、凸状態部分をフレキシブルファイルで削り落とします。フレキシブルファイルの研磨痕の目消しを行いフェザーエッジング後、PPプライマー、プラサフ塗布を行います。
今回はプラサフ研磨にて作業終了していますが、その後上塗りを行い完成となります。

削り落とした状態



目消し作業



プラサフ研磨



バンパー裏面の状態



終わりに

樹脂の特性を利用してパテを使用しないで完了しました。樹脂バンパー補修の参考になれば幸いです。また、当自動車研究所ではバンパー補修ステップアップコースで研修を行っていますので、是非受講してください。